

四月のお茶会

桜の花の下で “清和会” 開かれる

平成五年四月三日。やわらかな春の陽差しと満開の桜の中、裏千家茶道一流の師、鈴木宗幹先生のご自宅にある“日々庵”(東京都世田谷区)において、清和会のみなさんによる優雅で楽しいお茶会が催されました。

鈴木先生のご尊父は裏千家流の茶の湯の手引書を何冊も書かれている、著名な鈴木宗保先生。親子二代に亘り、駒沢大学茶道部の講師も歴任されておられます。横浜善光寺の方丈は、大学時代ずっと茶道部に在籍しておりましたが、そ

のとき学んだのが鈴木宗保先生でした。また、今回、薄茶席の席主となられたのは、黒田方丈の茶道部後輩にあたられる新美昌道氏。お茶会は、九時半から三時まで、黒田方丈の“濃茶席”、新美氏の“薄茶席”、大磯の松月製による“点心席”、終始なごやかに会は進められました。

集まってきてくださった清和会のみなさんは総勢約百五十人。中には広島からわざわざ駆けつけてきてくださった方も。それぞれが、茶の湯という、非日常的な、心豊かになる空間でコ

御茶	豊栄の音	此御用器
御菓子	ふやき	養生
器	備前摺鉢	骨人造
	以上	
茶碗	原歩手造 黒共箱	
茶杓	銘 吹茶去 物金並共箱	
茶入	瀬戸肩衝	
	御家元箱	
水指	竹根 一灯直書付 同箱	
	銘 達摩	
釜	中川一政手造土釜型トテ	
	銘 烈造	
花入	肥後耳付	
香合	染付 笠	
花		
床	總持位隠禪師筆 頌	
	春有百筆 秋有月	

ミニニケーションをはかり、忘れかけられつつある美しい日本の心を満喫して帰られたようでした。

大浜正さんは、次のような手紙を後日送ってくださいました。

『過日は鈴木先生御宅でのお茶会にお招き賜りありがとうございました。治ざいました。治兵衛先生の桜な

ぐりの炉縁の味わいと、中川先生の釜肌や文字の具合がマッチしていて最高でした。覚々齋の手造りの黒大茶碗、鉄のごとく、黒田方丈さまにびったりで、時代差を感じない、とても楽しい、すばらしいお席でした。魯山人先生のすり鉢もみごとで、大宇宙を感じ、豊かな気持ちになりました。

あたたかな茶日和、桜もほころび、花のトネルの下を幸せな気持ちで通り帰りました。茶の香の飛ばないうちにお礼申し上げたく存じます』

きつとみなさん、お茶会で感じた穏やかな喜びのひとときをお家にまで持って帰って、ご家族に笑顔とやさしさを分け与えられたことでしょう。